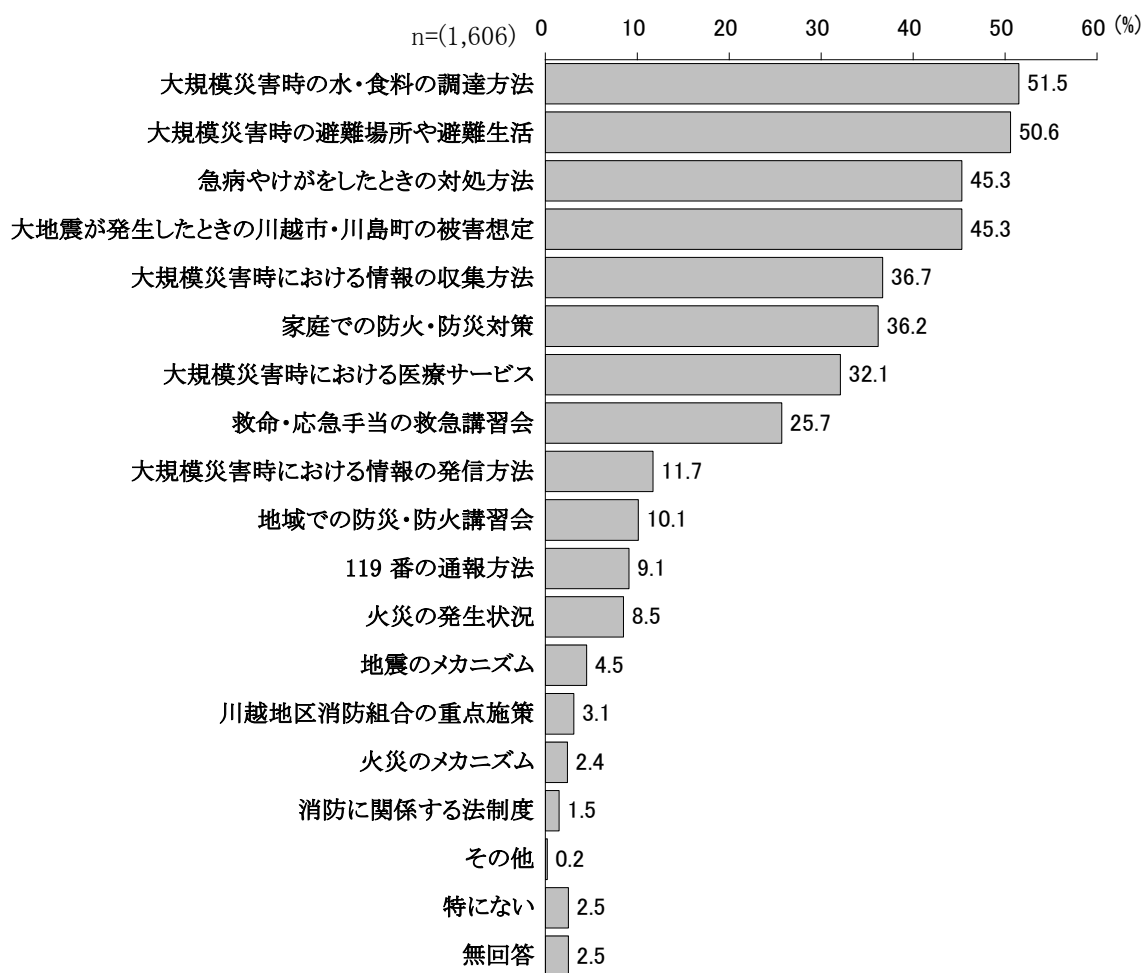


5. 消防・救急・防災情報について

(1) 興味のある情報の分野

問18 あなたは、消防・救急・防災に関する情報のうち、どのような分野の情報に興味がありますか。次の中から5つ以内で選んでください。(〇は5つまで)

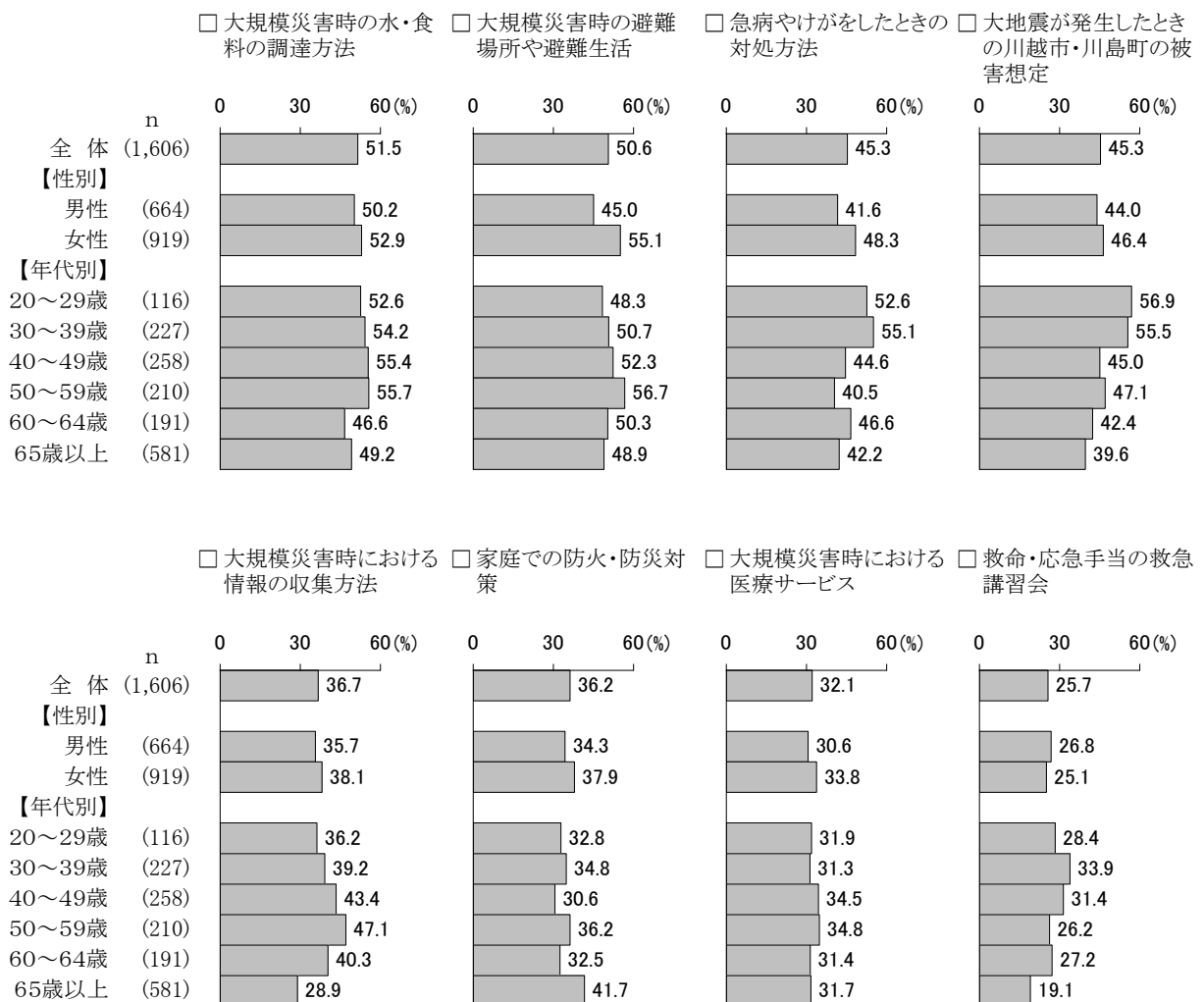


消防・救急・防災に関する情報のうち、興味のある分野を聞いたところ、「大規模災害時の水・食料の調達方法」(51.5%)、「大規模災害時の避難場所や避難生活」(50.6%)が5割台、「急病やけがをしたときの対処方法」、「大地震が発生したときの川越市・川島町の被害想定」(ともに45.3%)が4割台、「大規模災害時における情報の収集方法」(36.7%)、「家庭での防火・防災対策」(36.2%)、「大規模災害時における医療サービス」(32.1%)が3割台で続いている。上位項目には大規模災害に関するものが多くあげられており、関心の高さがうかがえる結果となっている。

性別にみても傾向に違いはみられないが、「大規模災害時の避難場所や避難生活」（男性：45.0%、女性：55.1%）、「急病やけがをしたときの対処方法」（男性：41.6%、女性：48.3%）などでは女性でより多くあげられている。

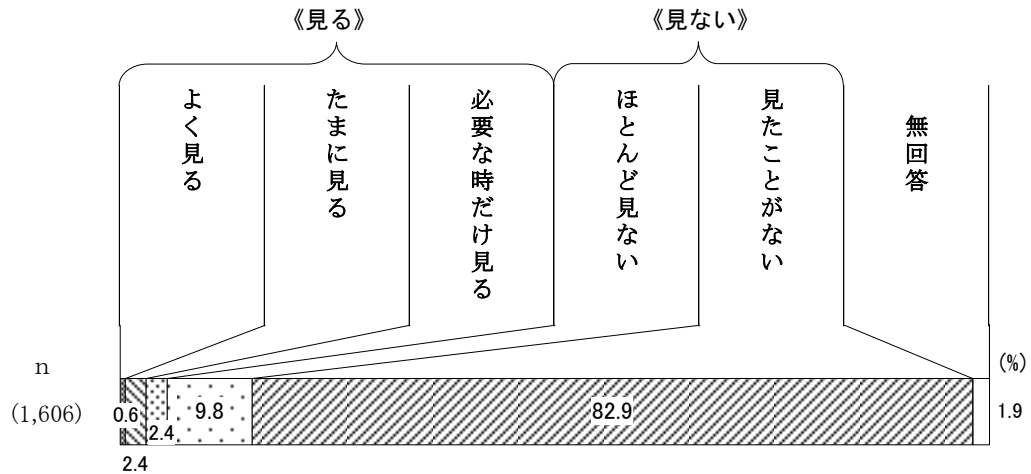
年代別にみても、ほとんどの年代で「大規模災害時の水・食料の調達方法」、「大規模災害時の避難場所や避難生活」、「大地震が発生したときの川越市・川島町の被害想定」及び「急病やけがをしたときの対処方法」が上位4項目となっている。また、「大規模災害時における情報の収集方法」は50～59歳（47.1%）を中心に広い年代で4割前後と多くなっている。

性別／年代別 上位8項目



(2) 川越地区消防組合の公式ホームページの閲覧経験

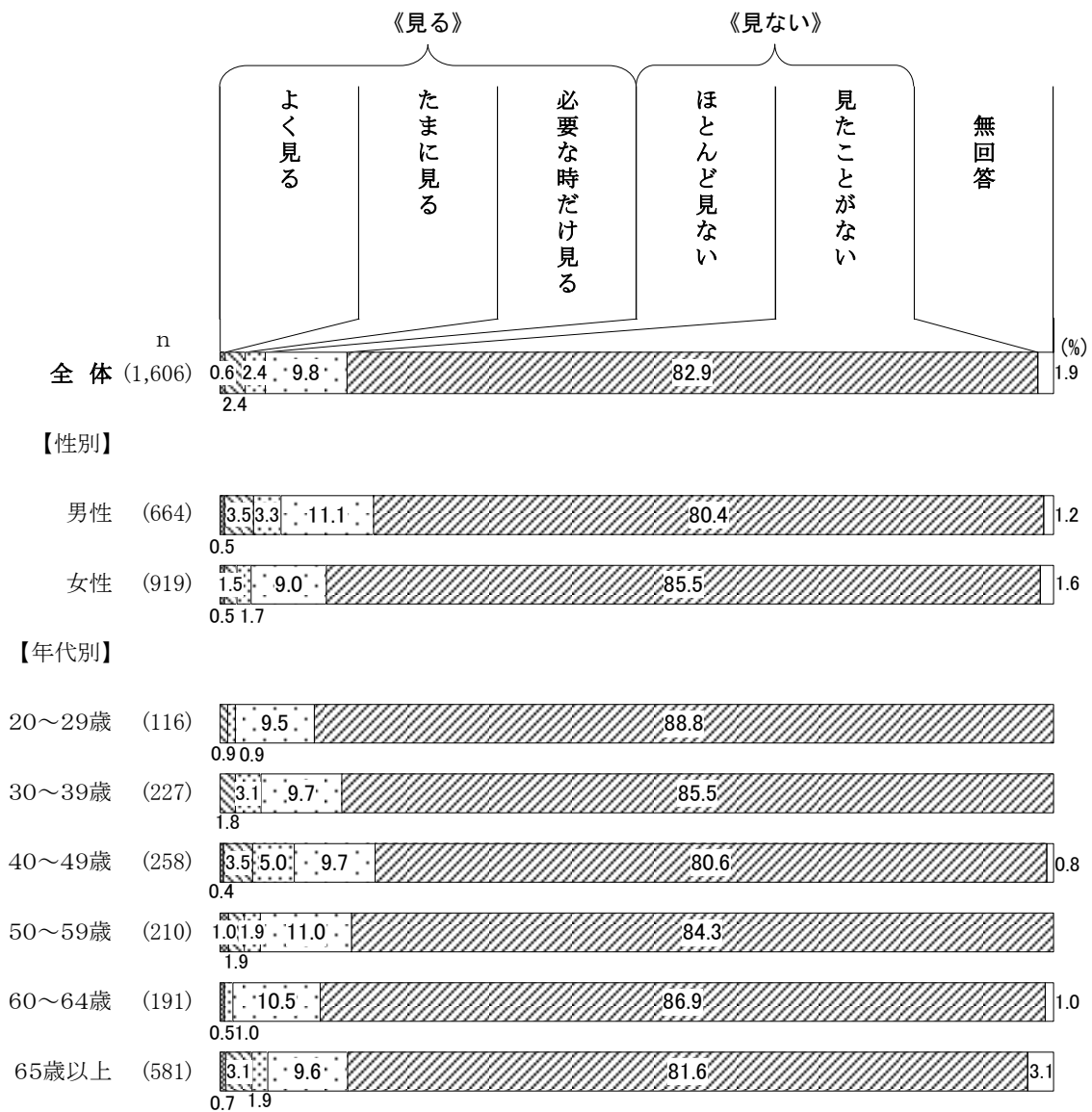
問19 川越地区消防組合では公式ホームページを開設していますが、あなたはこれまでに川越地区消防組合の公式ホームページを見たことがありますか。(○は1つ)



川越地区消防組合の公式ホームページ (<https://www.119kawagoechiku.jp/>) の閲覧経験は、「見たことがない」が82.9%と多く、これに「ほとんど見ない」(9.8%)を合わせた《見ない》が92.7%を占める。一方、《見る》(「よく見る」、「たまに見る」、「必要な時だけ見る」の計)は5.4%にとどまる。

性別、年代別にみても、いずれの層でも《見る》は1割未満にとどまり、《見ない》が多数を占めている。

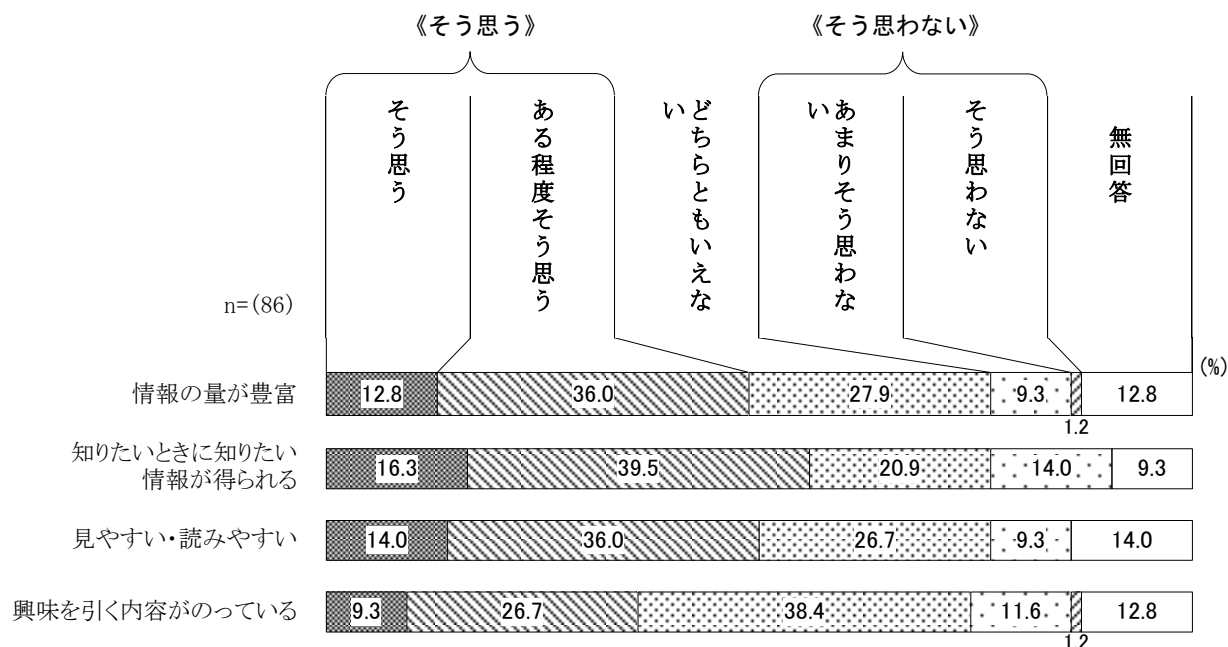
性別／年代別



(3) ホームページを見た感想

【問19で「よく見る」「たまに見る」「必要な時だけ見る」と答えた方におたずねします。】

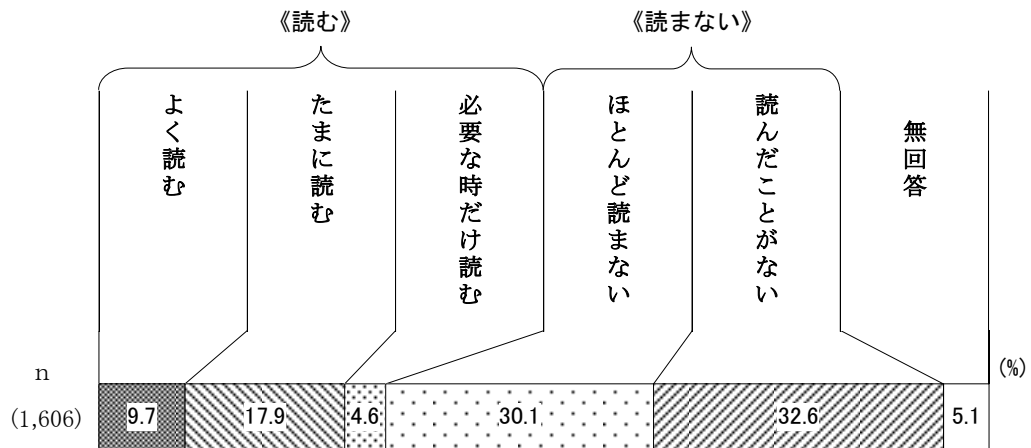
問19-1 川越地区消防組合の公式ホームページを見て、どのように感じましたか。それぞれの項目について、あてはまるものをお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)



川越地区消防組合の公式ホームページを見た感想を《そう思う》(「そう思う」と「ある程度そう思う」の計)で整理すると、《そう思う》が5割を超えるのは、“知りたいときに知りたい情報が得られる”(55.8%)と“見やすい・読みやすい”(50.0%)の2項目となっている。“情報の量が豊富”は48.8%で5割近いが、“興味を引く内容がのっている”は36.0%にとどまっている。

(4) 川越地区消防組合の広報紙の閲読経験

問20 川越地区消防組合では、2月頃、6月頃、11月頃の年3回、広報紙（虹のマーチ）を広報川越・広報かわじまに折り込んで配布していますが、これまでに読んだことはありますか。（○は1つ）

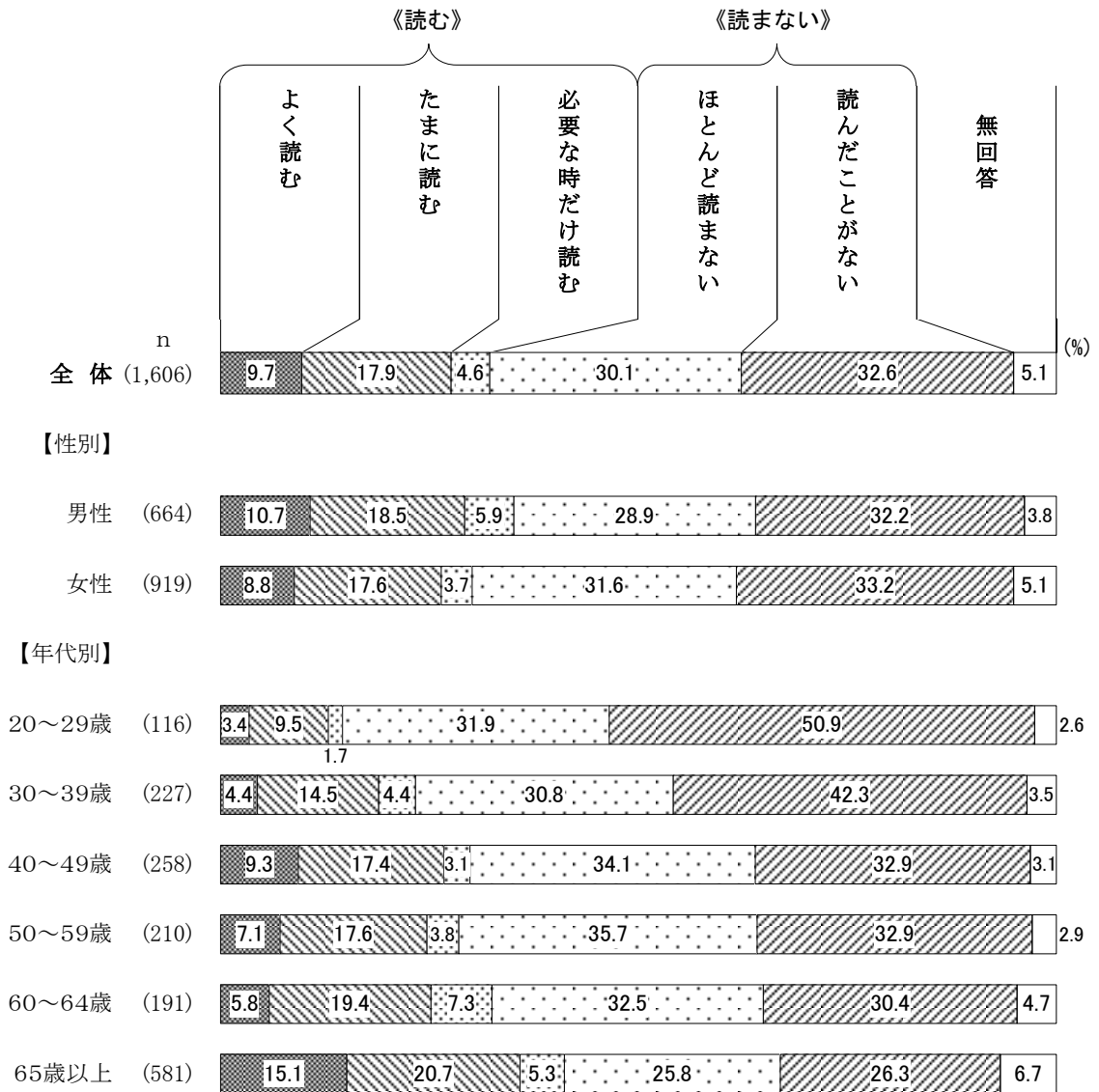


川越地区消防組合の広報紙（虹のマーチ）の閲読経験は、「よく読む」は9.7%、「たまに読む」は17.9%となっており、「必要な時だけ読む」（4.6%）を合わせた《読む》は32.2%となっている。一方、「読んだことがない」（32.6%）と「ほとんど読まない」（30.1%）を合わせた《読まない》は62.7%となっている。

性別にみると、《読む》はいずれも3割台だが、男性（35.1%）が女性（30.1%）を5.0ポイント上回っている。

年代別にみると、《読む》は20～29歳の14.6%から65歳以上の41.1%へと年代が上がるにつれて多くなる傾向となっている。一方、《読まない》はいずれの年代も半数以上となっており、特に20～29歳で82.8%、30～39歳で73.1%となっている。

性別／年代別

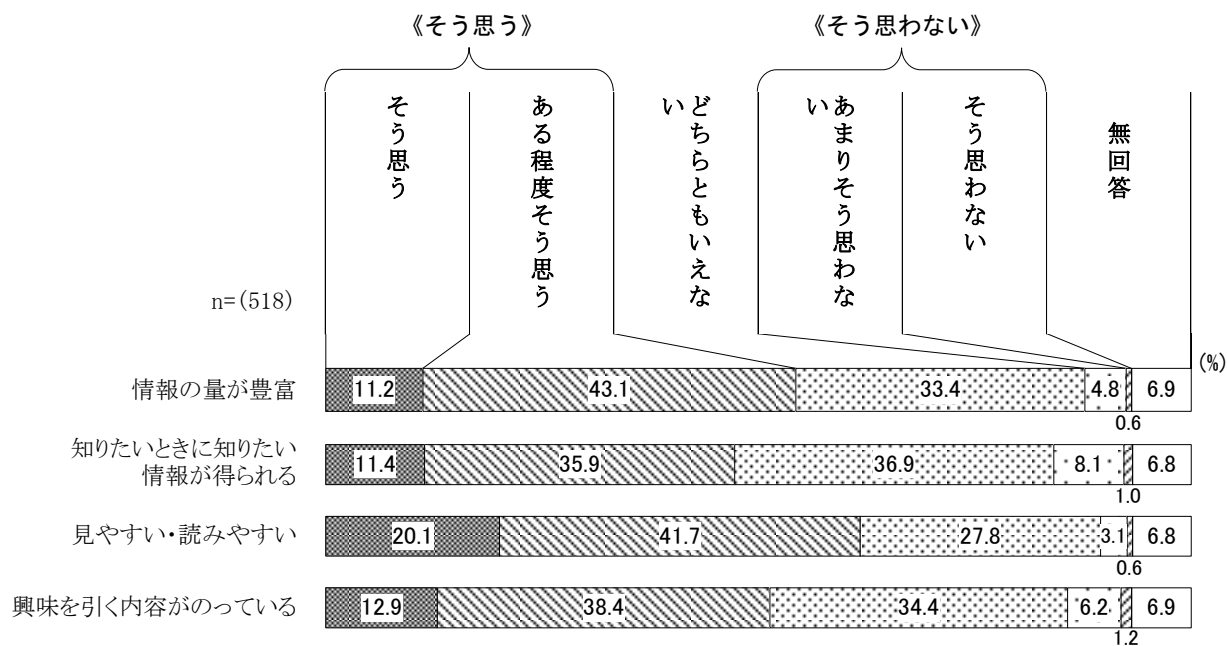


(5) 広報紙を読んだ感想

【問20で「よく読む」「たまに読む」「必要な時だけ読む」と答えた方におたずねします。】

問20-1 川越地区消防組合の広報紙（虹のマーチ）を読んで、どのように感じましたか。それぞれの項目について、あてはまるものをお答えください。

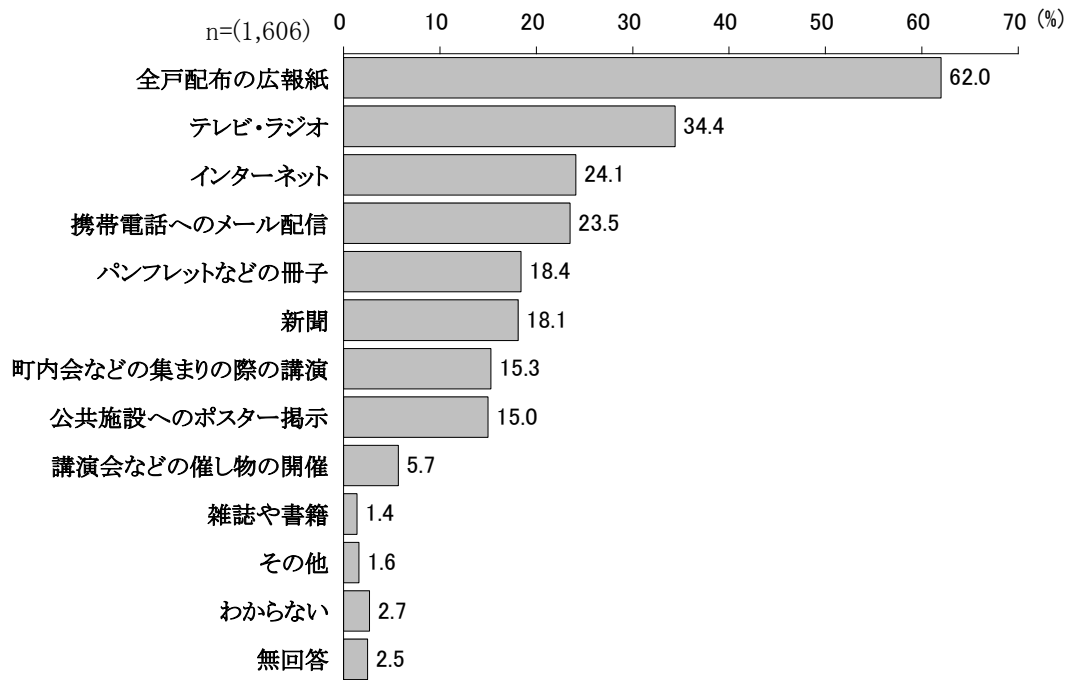
(○はそれぞれ1つずつ)



広報紙（虹のマーチ）を読んだ感想を《そう思う》（「そう思う」と「ある程度そう思う」の計）で整理すると、《そう思う》が5割を超えるのは“見やすい・読みやすい”（61.8%）、“情報の量が豊富”（54.3%）、“興味を引く内容がのっている”（51.3%）の3項目となっている。一方、“知りたいときに知りたい情報が得られる”は47.3%と5割を下回っている。

(6) 望ましい情報提供手段

問21 あなたは、どのような提供手段であれば、消防・救急・防災に関する情報を得やすいと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。(○は3つまで)

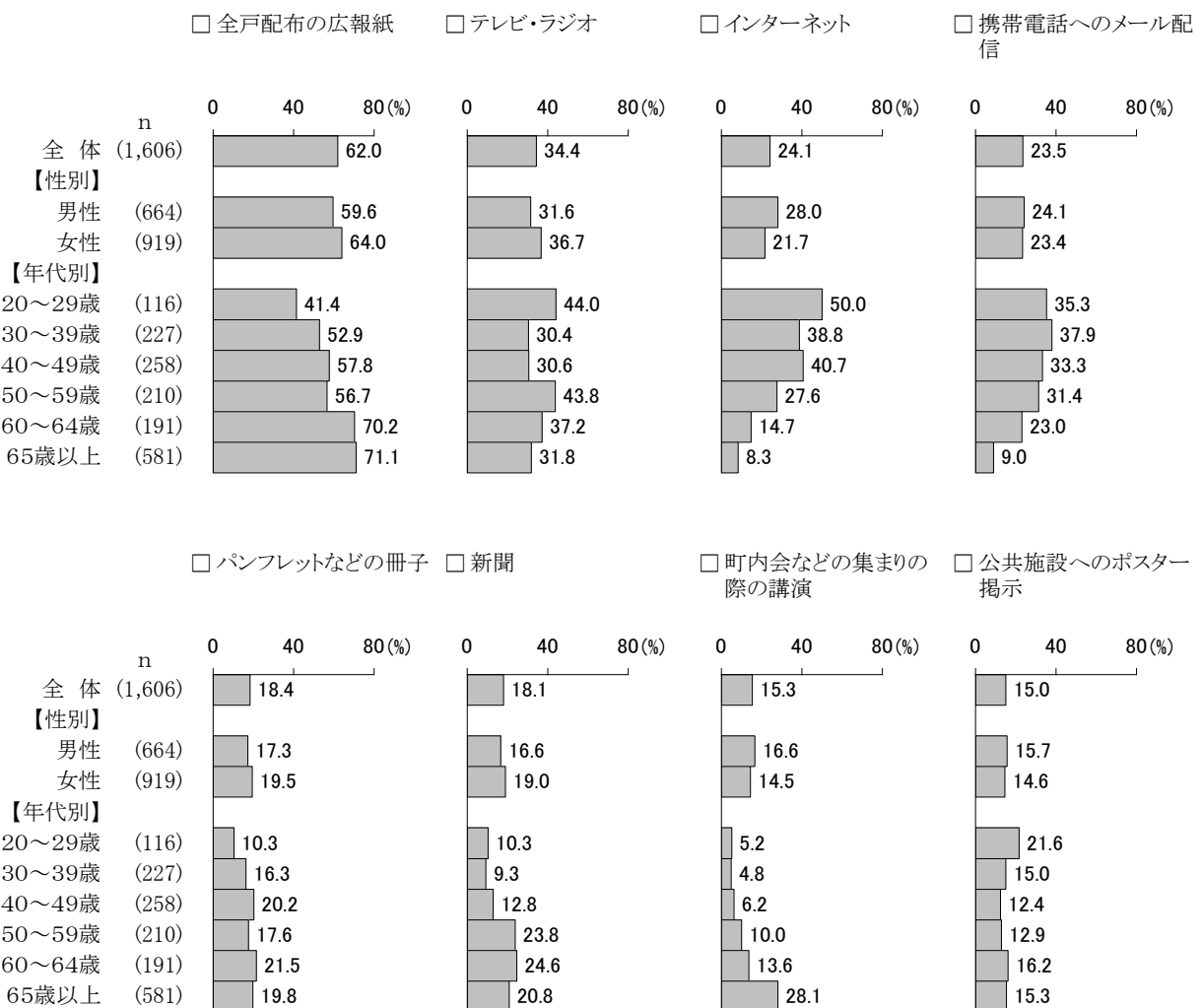


どのような提供手段であれば、消防・救急・防災に関する情報を得やすいと思うか聞いたところ、「全戸配布の広報紙」が62.0%で特に多く、以下、「テレビ・ラジオ」が34.4%、「インターネット」(24.1%)、「携帯電話へのメール配信」(23.5%)が2割台、「パンフレットなどの冊子」(18.4%)、「新聞」(18.1%)、「町内会などの集まりの際の講演」(15.3%)、「公共施設へのポスター掲示」(15.0%)が1割台で続いている。

性別にみると、「インターネット」は男性（28.0%）が女性（21.7%）を6.3ポイント上回り、「テレビ・ラジオ」は女性（36.7%）が男性（31.6%）を5.1ポイント上回っている。この他は大きな違いはみられない。

年代別にみると、「全戸配布の広報紙」は20～29歳の41.4%から65歳以上の71.1%へと年代が上がるにつれて多くなる傾向がみられる。「インターネット」、「携帯電話へのメール配信」は若年層ほど多い傾向となっており、特に「インターネット」は20～29歳では50.0%となっている。「町内会などの集まりの際の講演」は65歳以上で28.1%と他の年代より多くなっている。

性別／年代別 上位8項目



地区別にみると、「全戸配布の広報紙」はいずれの地区でも5割から6割台と多く、居住する地区に関わらず必要な情報提供手段としてあげられている。「インターネット」は南古谷地区で、「携帯電話へのメール配信」は芳野地区、南古谷地区でそれぞれ3割台と他の地区より多くなっている。

地区別 上位8項目

